

Hokkaido University News

北大時報

令和7年

8

No. 857 August 2025

北海道大学榮譽賞を加藤 元氏に授与
第64回全国七大学総合体育大会開会式を開催



全学ニュース

- 1 北海道大学荣誉賞を加藤 元氏に授与
- 2 千本倅生氏が北海道大学総長顧問に就任
- 3 北大・日立協働教育研究支援プログラム交流会を実施
- 4 現代日本学プログラム課程「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催
- 5 令和7年度北海道大学宮澤記念賞授与式を举行
- 6 令和7年度北海道大学新渡戸賞授与式を举行
- 7 令和7年度北海道大学レーン記念賞授与式を举行
- 8 第64回全国七大学総合体育大会開会式を開催
- 9 札幌キャンパスで特定外来生物（オオハングソンソウ）等防除を実施
- 10 総長記者懇談会を開催
- 11 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 13 大学生・高校生等対象アントレプレナーシップ教育イベント「Hakodate Re-Discovery：自分×函館の可能性」を開催
- 14 株式会社HBA連携講義の最終発表会を実施—学生のアイデア実現へ
- 15 令和7年度第1回サステナビリティ推進員会議を開催
- 16 北海道大学「北大道新アカデミー」2025年度前期プログラムを開催

部局ニュース

- 17 経済学部成績優秀者表彰式を举行
- 18 経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」表彰式を举行
- 19 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターセミナーを開催
- 20 会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催
- 21 令和7年度理学院優秀研究奨励賞授与式を举行
- 22 令和7年度分島亮研究奨励金授与式を举行
- 23 医学研究院が豪メルボルン大学とワークショップ「気候変動×移民の健康～日豪を結ぶ課題と可能性」を開催
- 24 北海道大学納骨堂慰霊式を举行
- 25 農学研究院で客員教授への感謝状贈呈式を举行
- 26 獣医学研究院で加藤 元先生の北海道大学荣誉賞受賞を祝福
- 27 スラブ・ユーラシア研究センター2025年度夏期国際シンポジウム「ユーラシアの地殻変動：過去と現在」を開催
- 28 学生相談総合センター学生相談室主催の「新学期に役立つ！春のワークショップ」を開催
- 29 「自分に合ったツールが見つかる！文献収集・管理ツール講習会」を開催
- 30 北海道大学病院で「第65回ふれあいコンサート セタのタベ」を開催

表敬訪問 31

人事 32

- 32 新任教授紹介

訃報

- 33 名誉教授 佐藤 教男 氏



北海道大学荣誉賞を加藤 元氏に授与



第64回全国七大学総合体育大会開会式を開催



株式会社HBA連携講義の最終発表会を実施—学生のアイデア実現へ



経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」表彰式を举行



学生相談総合センター学生相談室主催の「新学期に役立つ！春のワークショップ」を開催



北海道大学病院で「第65回ふれあいコンサート セタのタベ」を開催

■全学ニュース

北海道大学栄誉賞を加藤 元氏に授与

7月10日（木）、本学において、ダク
タリ動物病院代表である加藤 元氏に
対する北海道大学栄誉賞授与式を執り
行いました。

北海道大学栄誉賞は、本学を卒業
し、若しくは修了した者又は本学の職
員であった者のうち、学術、文化若し
くは、スポーツの分野又は社会活動に
おいて顕著な功績のあった者を表彰す
る制度です。これまでの受賞者は、プ
ロスキーヤーである三浦雄一郎氏、

JFEホールディングス株式会社名誉顧
問である数土文夫氏、株式会社アーク
ス代表取締役会長の横山 清氏の3名
であり、加藤氏は4人目の受賞者とな
ります。

加藤氏は、昭和31年に獣医学部を卒
業し、長年にわたり高度な獣医療を提
供するとともに、海外との交流を通じ
て、日本における獣医療の高度化及び
人と動物と自然を大切にする「ヒュー
マン・アニマル・ネイチャー・ボン

ド」の理念普及に多大な貢献をされて
おります。また、本学においても、北
海道大学広報アンバサダーとして、本
学の国際的認知度の向上等に多大な貢
献をいただいております。

授与式後には、学生時代に在籍され
た馬術部や獣医学部、動物病院を訪問
し、多くの学生や教職員の皆様と交流
を深めました。

（総務企画部総務課）



栄誉賞の盾を手に微笑む加藤氏（右）と寶金清博総長（左）



馬術部を訪問された加藤氏（中央）と馬術部の皆さん

千本倖生氏が北海道大学総長顧問に就任

7月17日付で、千本倖生（せんもとさちお）氏を本学の総長顧問に委嘱しました。任期は令和8年3月31日までです。

千本氏は、京都大学にて電子工学を学んだ後、フロリダ大学にてPh.Dを取得。日本電信電話公社（現NTT株式会社）を経て、稲盛和夫氏と第二電電株式会社（現KDDI株式会社）を共同創業した後、イー・アクセス、イー・モバイルを立ち上げ、両社の拡大を長き

にわたり牽引するなど、起業家として活躍されました。

現在は、京都大学特命教授として、グリーン・アントレプレナーシップを担当すると同時にAI、半導体、DX、ヘルスケアのベンチャー数社の取締役会長を務められています。また、公益財団法人「千本財団」及び公益財団法人「こどもたちと共に歩む会」の代表理事として、アジア太平洋各国の優

秀な若者や虐待被害に遭った児童への支援活動にも取り組まれています。

今後は総長顧問として、同氏の豊富な経験と知見を活かし、本学の運営に関し様々な助言をいただくことを予定しております。

（総務企画部総務課）



千本氏

北大・日立協働教育研究支援プログラム交流会を実施

7月10日（木）にオープンイノベーションハブ「エンレイソウ」で「日立の研究者と語る、研究の“その先”～『暮らし・地域』とのつながりを見つける交流会～」を開催しました。

「北大・日立協働教育研究支援プログラム」は株式会社日立製作所（以下「日立」という。）と本学による、優秀な学生の博士課程進学を支援する給付型奨学金制度です。社会課題の解決に貢献する高度な技術研究を担う人材の育成を目的として、令和2年度から実施しています。例年、東京都国分寺市にある日立の研究施設にて、プログラム生による研究進捗報告が実施されてきましたが、令和6年度からは、日立の方々が本学を訪問することで、プログラム生だけでなく本学所属の学生及び教職員との相互交流の機会も設けています。

本交流会では「暮らし・地域」をテーマに、第1部では公共政策大学院の池 炫周教授、工学研究院の野村理恵准教授、広報・社会連携本部の中村健吾特任准教授、日立の半澤宏子氏をパネリストとして招き、高等教育推進機構の川上あき特任講師によるファシリテートのもと、パネルディスカッションを行いました。本学学生を対象に実施した事前アンケート65件の回答結果も参考にしながら、自身が行う教育・研究活動がどのように地域社会とつながっているのか、話題提供がありました。

続いて、第2部では「若者、女性に選ばれる地域」をテーマに、①自分が感じる課題、②選ばれる地域になるために必要なことについて、参加者がグルーptークを行い、分野や立場の異なるメンバーと意見を交わしながら、

地域の未来像について多角的に考える貴重な時間を共有しました。世代や専門性を超えた対話を通じて、地域に根ざした研究の可能性や、技術と暮らしをつなぐ視点の重要性が浮かび上がりました。

交流会を通じて、山本文彦理事・副学長から「新しい技術環境の中で、多様な人たちがつながり、協力しながら社会課題に向き合う姿勢こそが、これからの研究や学びの土台になる」との言葉が寄せられました。

交流会終了後には、懇親会が行われ、参加者同士がリラックスした雰囲気の中でさらに意見を交わしました。研究テーマや地域への関心を共有しながら、分野を越えたつながりが自然に生まれる場となりました。

（学務企画課大学院教育改革推進室）



パネルディスカッションの様子



活発に意見が交わされたグルーptーク



グルーptークの内容を発表する本プログラム生の
幡谷省悟さん（国際食資源学院博士後期課程3年生）



懇親会の料理を前に笑みがこぼれる参加者

現代日本学プログラム課程 「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催

現代日本学プログラム課程（現プロ）では、令和7年度1学期に、対面による「ゲストレクチャー・ワークショップシリーズ」を開催しました。

本シリーズは、学内外の日本研究の専門家を招き、現代日本学の最先端について英語で学ぶことを目的とし、主に現プロ学生を対象として開催してい

ます。ブル・ジョナサン講師（高等教育推進機構国際教育研究部・現代日本学ユニット）がコーディネーターとなり、日本研究をテーマとして、多彩な講師による講演を5回にわたり実施しました。学内から延べ200名以上が出席し、現代日本学の諸相を学びました。

現プロでは今年度2学期以降も、現

プロ学生のみならず、学内外からの参加者の現代日本学への学びをさらに深め実学の涵養を目指し、より一層魅力的なゲストレクチャー及びワークショップを実施する予定です。

（学務部教育推進課）

講演内容及び登壇者

- ・ 5月23日（金） Lecture 「Teaching Citizenship: Japanese Education in Pre-War Hawai'i」
- 5月24日（土） Workshop 「Nikkei Visions: Examining 1930s Hawai'i Japanese School Textbooks」
エシヤック・ラシャード博士研究員（ケンブリッジ大学）
- ・ 5月30日（金） 「A Glimpse into the History of Japanese Migration in the Philippines」
北田依利博士研究員（東京大学）
- ・ 6月12日（木） Lecture 「Ezo Start Up: The West Pacific Co. and Treaty Port Hakodate in the 1860s and 1870s」
- 6月13日（金） Workshop 「Researching the Foreign Settlements of Treaty Port Japan」
アイビンス・スティーブン准教授（京都大学）
- ・ 7月4日（金） Lecture 「Japanese memories of the Asia-Pacific War - Manga artist Mizuki Shigeru's travelogues about the New Guinea campaign」
- 7月5日（土） Workshop 「Japanese memories of the Asia-Pacific War - An analysis of documentary film」
西野亮太准教授（名城大学）
- ・ 7月18日（金） 「Beyond Aid: The Power of Private Investment in Driving Sustainable Growth」
伊藤由美子シニアインベストメントオフィサー（国際金融公社）



北田博士研究員（東京大学）



アイビンス准教授（京都大学）

令和7年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙

6月25日（水）、高等教育推進機構において、令和7年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙りました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が11回目となります。

授与式は、受賞者10名が出席し、高橋 彩理事・副学長、田中英資外国語

教育センター長、そして高橋慶匡学務部長の列席のもと執り行い、高橋理事・副学長から受賞者へ賞状が授与され、宮澤・レーン事件や宮澤弘幸氏が国際的な活動に熱心な学生であったことについてのお話と共に、「本賞の主旨を理解し、今後益々活躍することを期待しています」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	渡	邊	せ	な
文学部	隈	上	将	吾
文学部	青	山	和	暉
文学部	樋	山	詠	亮
文学部	風	穴	時	輝
教育学部	福	嶋	柳之丞	
教育学部	馬	場	美	羽
教育学部	佐	藤	美	桜
法学部	小	野	愛	純
工学部	張		健	怡



受賞者記念撮影



授与の様子

令和7年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙

7月10日（木）、高等教育推進機構において、令和7年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙

新渡戸賞は、優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。

授与式は、受賞者13名が出席し、高橋 彩理事・副学長、高橋慶匡学務部

長の列席のもと執り行い、高橋理事・副学長から賞状が授与され、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に、「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を深め、学問に精励し、これからの大学生活をより一層有意義なものにすると共に、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	風 穴 時 輝
教育学部	櫻 庭 肇 人
法学部	山 田 煌 太
経済学部	藤 本 逸 太
理学部	久 保 春 斗
医学部（医）	兼 子 芽
医学部（保健）	本 間 渚 彩
歯学部	永 野 杜 文
薬学部	古 井 鳳 介
工学部	森 腰 玄 士
農学部	熊 谷 瑞 樹
獣医学部	杉 尾 有 雛
水産学部	永 谷 想 生



受賞者記念撮影



授与式の様子

令和7年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行

7月15日（火）、高等教育推進機構において、令和7年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行了しました。

レーン記念賞は、1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め436名の学生に授与されています。

授与式は、受賞者6名のうち5名が出席し、高橋 彩理事・副学長、外国語教育センターから奥 聡教授、土田映子教授、そして高橋慶匡学務部長の列席のもと執り行いました。

最初に、奥教授からレーン記念賞の

歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・M・レーン（Harold M.Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで、高橋理事・副学長から受賞者へ賞状、記念メダルが授与され、「これまで培ってきた英語力にさらに磨きをかけ、世界に羽ばたく人材として成長されるとともに、周囲から敬愛され、国際性豊かな社会人として活躍されることを願っています」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

受賞者

法学部	古 川 茉佳奈
教育学部	河 合 凛々子
工学部	中 村 大 成
農学部	森 田 旅
農学部	宮 本 真 優
理学部	瓦 田 優 香



受賞者記念撮影



授与式の様子

第64回全国七大学総合体育大会開会式を開催

北海道の夏を凝縮したような晴れやかな日差しが降り注ぐ7月12日（土）、本学が主管を務める第64回全国七大学総合体育大会の開会式がクラーク会館講堂で開催されました。

式典は、近藤 紫大会実行委員長による開会宣言から始まり、前回大会で総合優勝を果たした北海道大学を代表して、杉山雄介北海道大学体育会委員長から大会長である寶金清博総長に優勝旗・優勝杯が返還されました。その後、寶金総長による大会長挨拶、近藤大会実行委員長からの挨拶、樺山紘一一般社団法人学士会理事長からの来賓挨拶が行われました。

続いて、協賛企業及び団体の紹介、マスコットキャラクター「クマーク博士」の紹介が行われ、福田宣敬洋弓部主将（歯学部3年）による力強い選手宣誓をもって第1部が締めくくられました。

第2部では、パイプオルガン研究会による演奏、チアリーダー部による演舞、応援団・応援吹奏団による演舞が披露され、会場は大きな喝采に包まれました。

開会式終了後には、福利厚生会館北部食堂において、北海道大学生活協同組合及び協賛企業の協力の下、レセプションが開催されました。

冒頭では、高橋 彩理事・副学長から開会の挨拶と乾杯の発声があり、その後、各大学総長らによる大会への意気込みが述べられました。

公認学生団体である奇術研究会、混声合唱団、ブルーグラス研究会による発表も行われ、楽しいレセプションに大きな華を添えていました。

最後に、各大学体育会委員長による大会への抱負が述べられ、レセプションは大盛況のうちに終了しました。

（学務部学生支援課）



寶金総長（右）と杉山体育会委員長（左）



応援団・応援吹奏団による演舞



レセプション終了後の集合写真

札幌キャンパスで特定外来生物（オオハンゴンソウ）等防除を実施

6月30日（月）、札幌キャンパス内大野池周辺、弓道場周辺及び地球環境科学研究院北側周辺で、特定外来生物等防除を実施しました。蒸し暑い中にもかかわらず、学生・教職員約40名が参加しました。

この活動は、「北海道大学キャンパスマスタープラン2018」に掲げられて

いる自然・生態環境の維持・管理・保全の取り組みの一環であり、侵略的外来植物の防除を推進するものです。

本年は、生態環境マネジメントワーキング構成員である愛甲哲也教授及び環境科学院の露崎史郎教授他先生方の指導・協力のもと、約1時間の作業を行い、特定外来生物（植物）であるオ

オハンゴンソウ及び要注意外来生物（植物）であるドクニンジン等を計約4㎡防除することができました。これらの防除結果は、年末に環境省へ報告する予定です。

（施設部環境配慮促進課）



挨拶をする愛甲教授



防除の様子（大野池周辺）



防除の様子（地球環境科学研究院周辺）



集積された特定外来生物等

総長記者懇談会を開催

7月15日（火）、本学総長と地元記者との交流を深めることを目的とした「総長記者懇談会」を開催しました。本学からは寶金清博総長、高橋 彩理事・副学長（広報統括）、横田 篤理事・副学長（サステナビリティ・SDGs）、黒岩麻里総長補佐、杉浦真由美総長補佐、南波直樹教授（広報・社会連携本部広報・コミュニケーション部門長）らが出席し、北海道教育記者クラブ加盟社からは10名が参加しました。

今年の懇談会は二部制とし、第一部は本学の取組についての情報提供を記

者会見の形式にて、第二部は食事をとりながらの懇談形式にて開催しました。

学術交流会館を会場とした第一部では、寶金総長からの開会挨拶後、横田理事・副学長から「THEインパクトランキング2025」において、総合ランキング世界44位、6年連続国内1位を獲得した本学の取組などについて説明があり、記者との質疑応答が行われました。

第二部は、会場をインフォメーションセンター「エルムの森」内のカフェでごはんに移し、冒頭、寶金総長から来年創基150周年を迎える本学の取組紹介を含めた挨拶があり、和やかな雰

囲気で懇談が始まりました。参加者は構内で採れた食材を使用した料理などを楽しみながら、活発な意見交換が行われました。

懇談会の最後には、高橋理事・副学長から今後も報道機関との連携を深めていきたいとの挨拶があり、懇談会は盛会のうちに終了しました。参加した記者からは、顔が見える形で北大の役員や広報関係者と多くの話をすることができ、良好な協力関係に繋がる取組だと思う、との意見が寄せられました。

（社会共創部広報課）



開会挨拶をする寶金総長



本学の取組を説明する横田理事・副学長



懇談会の様子



閉会挨拶をする高橋理事・副学長

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	（6月30日現在）／55,801件	9,275,930,049円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	（6月30日現在）／18,753件	3,111,161,492円

<ご寄附状況>

6月は1,023件1,035,575,721円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。
（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

アジア航測株式会社、有限会社アルファ・コミュニケーション、池田煖房工業株式会社、岩見沢市立総合病院、株式会社H&Nホールディングス、株式会社HTS Planning、大塚ホールディングス株式会社、株式会社クボタ、クボタ環境エンジニアリング株式会社、医療法人緑風会新琴似皮膚科スキンケアクリニック、医療法人スワンアイクリニック、社会医療法人製鉄記念室蘭病院、医療法人湊仁会手稲湊仁会病院、特定非営利活動法人ならサポートワークラボ、医療法人寧和会、農学部森林科学科学生有志、合同会社パーシモン、柏楊印刷株式会社、株式会社ベステック、北海道大学中部地区同窓会、医療法人社団峰村内科クリニック

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青井 良平	青木 俊介	青柳 良隆	秋山 道生	浅沼 佳南	安倍 宣昭	阿部 雅史
荒井 克俊	安東 龍江	飯田 年以	石井 哲夫	石井 俊幸	石名坂智秀	市川 祐也	井出 肇
伊藤 雄三	犬飼 英明	井上 斉	井上 将希	井原 博	今井 四郎	今井 晋	今泉 秀美
入澤 秀次	岩熊 敏夫	岩田 浩明	上田 雅敏	梅本 由佳	縁記 和也	遠藤 公憲	大倉 俊
大崎 智史	大原 正範	大森 優子	大谷 研一	岡田 英子	岡田 健	岡野 文雄	沖崎 遼
小澤 丈夫	尾城 卓也	小田原一史	尾上 博則	小原 大和	小俣 美香	片岡 博行	加藤 千晴
金川 眞行	神藏 寿観	神山 誉	河本 充司	北 英夫	木滝 俊郎	衣川 暢子	栗原 誠治
上月 浩	古梶 正洋	小林 賢人	小柳佑衣子	今内 覚	齊藤 晋	齋藤 久	齋藤 真衣
坂本 大介	崎元 大志	貞廣 吉幸	佐藤 市雄	佐藤壮一郎	佐藤 照明	佐藤 豊孝	佐野海瑚人
澤田 武蔵	三升畑元基	志賀 直信	志済 聡子	篠原 信雄	島 佳隆	清水 薫子	下鶴 倫人
蛇川 優子	陣谷 義直	菅原 新也	杉江 和男	鈴木 瀬那	鈴木 貴之	鈴木 雅樹	鈴木 正司
瀬名波栄潤	高島 真一	高瀬登志彦	高野由美子	高山 芳幸	田栗 和奈	竹内 勸	竹内 啓貴
田中 佐織	種本 均	田村 健	辻 博勝	土家 琢磨	鄭 雄一	富田 進	豊田 威信
中村 楯夫	西田 和代	西山 熏代	根本 叔治	野島 孝之	野村紘一郎	羽川 義人	花田 秀一
早川 欽哉	林 和広	原田 祐司	平井 康市	廣重 勝彦	福永 悟郎	藤澤 裕子	藤田 芳康
藤原 明	藤原 彩乃	古川夕里香	古田 恵	星 光流	本田 史子	松井 耕二	松崎 亮磨
松永 章宏	松原 謙一	真屋 幹雄	三木 證永	水上 卓哉	源 哲雄	宮坂 知宏	宮田 信幸
村上 広輝	村瀬徳啓充	村田 史郎	森田 陽子	森永 大亮	山田 知充	山田 浩之	山地賢一郎
余湖 兼右	横山 和弘	横山 考	吉田 広志	吉原 正朝	渡瀬 和男	渡邊 晶子	渡邊 邦人

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）。

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

大学生・高校生等対象アントレプレナーシップ教育イベント 「Hakodate Re-Discovery：自分×函館の可能性」を開催

産学・地域協働推進機構は、SCSK北海道株式会社及び函館市との共催により、6月14日（土）に、はこだてみらい館でアントレプレナーシップ（起業家精神）教育イベント「Hakodate Re-Discovery：自分×函館の可能性」を開催しました。

主な参加対象は、函館周辺地域の大学生及び高校生で、本学の留学生らとの交流を通じて、函館市や地元企業の魅力を再発見し、その魅力を世界に発信するアイデアを考える体験型プログラムとなっています。また、異文化理解を深めるとともに、創造性及び行動力を育むことを目的としています。

当日は、英語と日本語を用いて、アクティビティやグループワークを行いました。「函館の“良いところ”」を再定義し、地元企業である株式会社五島軒、株式会社合食の商品や特長と組み合わせることで函館の魅力を再発見し、それらを世界へ発信していくプロモーションアイデアの提案を行いました。

参加した学生からは、「函館に住んでいてもその魅力を考える機会があまりなかったので、このイベントはとても良い機会だった」「函館の特産物について知り、それを作る地元企業の新商品の開発の力になれて嬉しかった」

「留学生と交流でき、多様な意見を理解することができた」といった声が寄せられました。地域の魅力を多角的に捉え、具体的な商品開発案やプロモーションアイデアを検討する体験を通じて、地元に住む自分たちだからこそ持っている視点を活かし、ビジネスと地域の魅力を結びつける貴重な経験を得ることができました。

産学・地域協働推進機構は、今後もこのように地域との連携を深め、学生のアントレプレナーシップの育成に貢献してまいります。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 程：2025年6月14日（土）13:30～17:00

場 所：はこだてみらい館

対 象：大学生・大学院生・専門学校生・高等専門学校生・高校生 22名

共 催：SCSK北海道株式会社、函館市、産学・地域協働推進機構

協 賛：株式会社五島軒、株式会社合食

協 力：株式会社医食同源

運 営：Beeber Global



アイデア出しの様子



グループワークの様子



発表の様子



全体集合写真

株式会社HBA連携講義の最終発表会を実施—学生のアイデア実現へ

産学・地域協働推進機構は、株式会社HBAと連携して全8回の実践型講義「オリジナルノベルティ制作の実践で学ぶ商品開発とマーケティング」を実施し、7月1日（火）に最終発表会を行いました。本講義は、企業と学生がリアルな課題に向き合いながら、マーケティングやデザイン思考を学ぶことを目的とした取組です。

講義には、北海道芸術デザイン専門学校教員で建築家の大塚裕介氏、本学産学・地域協働推進機構の滝田陽介特任准教授、株式会社北海道博報堂の鏡 浩二氏らが講師として参画しました。学生たちは、講義やワークショップを通して、ノベルティ制作の目的や

社会的意義を掘り下げながら、HBA社のブランドコンセプトや経営理念を反映したオリジナルノベルティの提案に挑戦しました。

最終発表では、所属・学部・学年を超えて編成された9チームが、それぞれの視点から「HBAらしさ」を体现するノベルティを企画・提案しました。環境配慮や地域性、ユーモア、共感性、デジタル技術等を取り入れた幅広いノベルティ制作のアイデアが披露されました。

優秀賞に選ばれた4チームのアイデアは、現在、実現に向けて着実に制作が進められており、9月14日（日）に実施されるイベント「HBA Special Night 道

新・秋華火」では、「ポケットティッシュ型のおみくじ」や「防災ポンチョ」といったユニークなノベルティが来場者に配布される予定です。その他にも、「北海道らしさ」を盛り込んだ炊き込みご飯の素や「幸せの共有」をテーマにしたお菓子など、学生の発想が形となり、多くの人の手に届く機会が生まれようとしています。

学生にとって、企業が抱えるリアルな課題に対してアイデアを出し、それが社会で実装される経験は非常に貴重であり、本講義は、産学連携による教育の可能性を広げるものとなりました。

（産学・地域協働推進機構）

実施内容

日 程：2025年4月15日（火）～7月1日（火）（全8回）

場 所：フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI）、オンライン配信

対 象：大学生・大学院生・専門学校生・高等専門学校生・高校生

主 催：産学・地域協働推進機構 スタートアップ創出本部、株式会社HBA



学生チームが作成したプロトタイプ



実演する様子



最終発表の様子



最優秀賞を獲得したチーム

令和7年度第1回サステナビリティ推進員会議を開催

サステナビリティ推進機構は、7月3日（木）、令和7年度第1回サステナビリティ推進員会議をオンラインで開催しました。各部局等のサステナビリティ推進員及び同補佐（以下「推進員等」という。）の他、施設部職員等合わせて91名の出席がありました。

最初に、サステナビリティ推進機構長の横田 篤理事・副学長より、「サステナビリティ推進員制度について」を説明しました。その中で2050年までの温室効果ガス排出量削減とカーボンニュートラル達成に向けたロードマップ策定のため、部局等での省エネルギーの取組の確認や意見の提供に協力いただきたい旨を、推進員等に対してお願いしました。

続いて、事務局からの協力要請として、推進員等から教職員及び学生を含めた全ての構成員に対して、「令和7年度夏季の省エネルギー対策について」を説明するとともに、「省エネルギー対策の手引き（令和5年12月改定）」^{*1}や「北大版省エネチェックシート」を活用の上、省エネ対策を推進することを周知するよう依頼するとともに、専門業者が行うこととなる「エアコン・熱交換器の洗浄」について、当該洗浄を実施する希望のある部局等を取りまとめて事務局が包括的な発注（費用は部局負担）を検討していることを共有しました。

また、事務局より、「2025年度札幌キャンパスにおけるエキノコックス調

査報告と予防について」を、愛甲哲也総長補佐より「ニセアカシア、ニワウルシの駆除について」を説明しました。

さらに、サステナビリティ推進機構の加藤 悟教授からは、「ウェブサイト『北海道大学×SDGs』への情報提供のお願い」として、各部局等で実施するSDGsに関するセミナー、シンポジウム、講演等の情報について、本機構SDGs事業推進部門へ提供するよう依頼しました。

次に、報告事項として、サステナビリティ推進機構の石井一英カーボンニュートラル推進部門長より、今年設立されたGX先導研究センターの概要を、横田機構長より、THEインパクトランキング2025の結果^{*2}について、本学の評価結果が総合ランキングで世界同率44位及び6年連続で国内1位を獲得したことを、加藤教授より「令和6・令和7年度出張FD・SD『北海道大学サステナビリティ宣言と教育研究活動』について」を報告しました。

最後に、事務局より「施設管理2024」として、本学における施設の保有面積やエネルギー使用量の推移等を説明し、会議を終了しました。

サステナビリティ推進機構では、今後も引き続き、部局等と連携を図りながらサステナビリティ推進に関する活動を実施して参ります。これらの活動はキャンパスの維持・管理や財政等に密接に関わる課題でもあり、北海道大学として持続可能な社会の実現及

び未来づくりに貢献していくためにも、全学で一丸となって進めていきたいと考えます。皆様のご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

^{*1} （学内限定）省エネルギー対策の手引き
<https://www.facility.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2023/12/9419005900f1bf22c8afa7da6ab89f27.pdf>

^{*2} THEインパクトランキング2025の結果
<https://sdgs.hokudai.ac.jp/our-journey-with-sdgs/impact-ranking/>

（サステナビリティ推進機構）



（学内限定）省エネルギー対策の手引き



THEインパクトランキング2025で世界44位、6年連続国内1位を獲得

議題

1. サステナビリティ推進員制度について
- 協力要請
2. 令和7年度夏季の省エネルギー対策について
3. 2025年度 札幌キャンパスにおけるエキノコックス調査報告と予防について
4. ニセアカシア、ニワウルシの駆除について
5. ウェブサイト「北海道大学×SDGs」への情報提供のお願い
- 報告
6. GX先導研究センターについて
7. THEインパクトランキング2025の結果について
8. 令和6年度・7年度出張FD・SD「北海道大学サステナビリティ宣言と教育研究活動」について
9. 施設管理2024について

北海道大学「北大道新アカデミー」2025年度前期プログラムを開催

大学院教育推進機構リカレント教育推進部は、北海道新聞社との包括連携協定に基づいて、主に学外の社会人を対象とした教育プログラム「北大道新アカデミー」を運営しています。「北大道新アカデミー」は、北海道大学が提供する、社会人の学び直しを意味するリカレント教育プログラムの一つに位置づけられています。2025年度前期は、4月12日（土）から6月28日（土）にかけて、理系・文系の2コースそれぞれ8回を、人文・社会科学総合教育研究棟を会場にして、対面で開講しました。

今回の文系コースは教育学研究院の

研究者が講義を行いました。テーマは「『学習』とは何か 学びを深める学びを学ぶ」です。「学ぶ」とはどういうことかを切り口に、私たちの生活と学ぶことの関係や、誰もが学習する機会にひらかれた社会について考えました。

理系コースは、薬学研究院の8人の研究者が担当しました。「薬学研究の不思議な世界 薬学が創る新しい医療」として、がんや感染症、慢性疾患の最新治療法など、薬学研究の魅力や最新のトピックを幅広く紹介し、私たちの健康を支える薬学について学びました。

前期の北大道新アカデミーの講座受講者数は文系コース83名、理系コース98名でした。受講後のアンケートには「『学ぶ』ということの大切さ、重さについて、様々な視点からお話を聞けて大変有意義でした」「今、高校3年生でちょうど神経について勉強しています。勉強内容が薬学に関係していることを知ることができました」といった感想が寄せられました。講義の詳細は、リカレント教育推進部のウェブページに掲載しています。

<https://reh.grad.hokudai.ac.jp/>

（大学院教育推進機構）

2025年度北大道新アカデミー前期 講義タイトル・講師

	理系コース		文系コース	
	日 程	講義タイトル・講師	日 程	講義タイトル・講師
第1回	4月12日（土）	セラミドによる皮膚バリア形成 薬学研究院 木原章雄 教授	4月12日（土）	教育（education）の由来 教育学研究院 白水浩信 教授
第2回	4月19日（土）	新しい薬を創るとは？ 薬学研究院 乙黒聡子 技術専門職員	4月19日（土）	日本型公教育・学校システムにおける教育機会保障 教育学研究院 篠原岳司 准教授
第3回	4月26日（土）	医薬品開発におけるタンパク質・抗体 薬学研究院 黒木喜美子 教授	5月17日（土）	思春期になるとなぜ問題を起こせるようになるのか？ 教育学研究院 加藤弘通 教授
第4回	5月24日（土）	くすりのリスク～確かな情報を基にした、安全なくすりの使いかた～ 薬学研究院 小林正紀 教授	5月24日（土）	人間発達における乳幼児期 教育学研究院 川田 学 教授
第5回	5月31日（土）	細胞を「くすり」として使う再生医療 薬学研究院 大西俊介 教授	5月31日（土）	読み能力の習得と発達性ディスレクシア 教育学研究院 関あゆみ 教授
第6回	6月14日（土）	自然から薬のタネを探す 薬学研究院 吉村 彩 助教	6月14日（土）	できない身体から学びを問いなおす 教育学研究院 山崎貴史 准教授
第7回	6月21日（土）	快と不快の脳科学 薬学研究院 南 雅文 教授	6月21日（土）	経済発展と「学び」～インドでの「貧困と教育」調査から～ 教育学研究院 佐々木宏 准教授
第8回	6月28日（土）	私たちの体を守る！ミトコンドリアとナノカプセルの未来 薬学研究院 山田勇磨 教授	6月28日（土）	「学びなおし」を考える 教育学研究院 辻 智子 教授

※会場：人文・社会科学総合教育研究棟W103

■ 部局ニュース

経済学部成績優秀者表彰式を挙行

7月3日（木）、経済学研究院研究棟にて、経済学部「成績優秀者表彰制度」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績を修めた学生の中から、学生の模範となるような成績優秀者を学部長が選考・表彰するとともに、Dean's List（成績

優秀者名簿）に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としています。本年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が選出されました。

表彰式では、久保淳司学部長から対象者へ表彰状と副賞が手渡され、祝福の言葉が述べられました。引き続き行われた懇親会では、出席者が親睦を深

めました。

経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取り組みを行っていく予定です。

（経済学部）



本年度の受賞者

経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」表彰式を挙行政

経済学部では、7月17日（木）、経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」の表彰式を行いました。

「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」は、経済学部OGの横山和子氏からの御寄附により今年度から新たに創設された賞であり、一定の学

業成績要件を満たした学部生のうち、TOEFL・iBTで優秀なスコアを取得した者を表彰することにより、海外留学を促進することを目的としています。今年度は4年生の多田野真仁さんが選出されました。表彰式では、指導教員の

部長から対象者へ表彰状と副賞が手渡され、祝福の言葉が述べられました。

経済学部では、今後も学生の語学力向上や海外留学を促すための取り組みを行っていく予定です。

（経済学部）



受賞者との記念撮影

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターセミナーを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでは、6月28日（土）に〈知床ナイト〉「伝説の水中写真家とともに、神秘の半島のいまと未来を考える夜」と題するセミナーを開催しました。本セミナーは、知床半島のユネスコ世界自然遺産認定20周年のタイミングにあわせて企画されたものです。

講演者として、著名な水中写真家である有限会社知床ダイビング企画社長の関 勝則氏をお招きし、和やかな雰囲気の中セミナーが進行しました。関氏は、NHK「ダーウィンが来た」をはじめとする様々なテレビ番組に多数出演するとともに、知床の水中や陸上の貴重な画像及び動画データを各種メディアに提供するなど、知床の自然に関するまさに第一人者です。本セミナーでは、関氏がこれまでに撮り貯めてきた貴重な映像作品の数々を映していただきながら、知床半島の大自然、気候変動、オーバーツーリズムなど多面的な切り口でお話が展開しました。

冒頭、関氏より「かつては“黒い川”と例えられるほど、知床の秋の河川にはカラフトマスが遡上した。しかし近年、気候変動による水温上昇の影響で個体数が激減している」との問題提起とともに、新旧比較の水中写真が示されました。過去20年余で大きく変わってしまった知床半島の自然、とりわけ水中環境の変化は大きな衝撃でした。

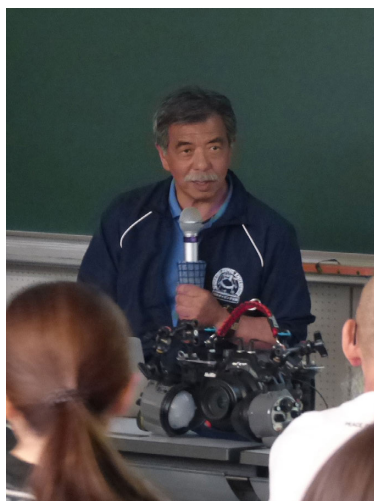
関氏がお住まいの羅臼町は、冬期間に流水が着岸することで知られています。数十年前は、早い年だと12月末頃から4月末頃まで流水で海が閉ざされたそうです。しかし近年では、2月下旬から3月半ばにかけての限られた短期間しか流水が到来せず、これも気候変動の影響である可能性が高いとのことでした。

流水というと、一般には観光資源と捉えられるかもしれませんが。しかし流水が海面を埋め尽くすことによって波が穏やかになり、ゆっくりと成長する

養殖ホタテ貝などが守られるという効果もあります。流水の到来時期が遅かったりその量が少なかったりすると、海面が荒れて水中もかき混ぜられて稚貝が弱ってしまい、結果的には漁業にも悪影響が及ぶのです。自然を巡る様々が、このように密接に関わっているという事実も、今回のセミナーの重要な指摘事項でした。

今回は一般市民の参加も促すべく、土曜日の18時30分から20時という時間帯にセミナーを設定しました。この結果、学生や教職員の皆様はもちろんのこと、道内各地をはじめ、遠くは東京都、千葉県、奈良県などからもセミナーに参加いただきました。地域経済経営ネットワーク研究センターでは、今後も折に触れて、広く地域に関わるテーマのセミナーなどを開催してまいります。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演者の関氏



会場の様子

会計専門職大学院が公認会計士制度説明会を開催

7月7日（月）に、会計専門職大学院と日本公認会計士協会北海道会との共催により、「公認会計士制度説明会」を人文・社会科学総合教育研究棟にて実施しました。この説明会は、学部・学院を問わず広く本学の学生へ公認会計士についての理解を深めてもらうことを主たる目的としています。

日本公認会計士協会北海道会の新木 亘広報委員長の司会のもと、同会の柴本岳志会長による趣旨説明、会計

専門職大学院の春日部光紀院長の挨拶にはじまり、公認会計士の役割と監査業務の再現映像を視聴しました。

続いて、同会会員の吉田駿介氏、岩間智己氏両名による「公認会計士の仕事と魅力」と題する講演が行われました。監査法人における業務経験や活躍の場に関するご説明に加え、学生時代の過ごし方や受験勉強に臨む際の心構えについてもお話しいただきました。加えて、直近の公認会計士試験の合格

動向にも言及いただくなど、参加学生のキャリア形成の参考となる、極めて示唆に富んだ分かりやすい講話でした。講演会の最後に行われた学生からの質疑応答でも、吉田氏、岩間氏両名が分かりやすく率直に回答いただき、盛会のうちに終了しました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



会場の様子

令和7年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙行

理学院では、7月16日（水）に理学部本館において、令和7年度理学院優秀研究奨励賞授賞式を挙行了しました。

この賞は、理学に関する優れた研究を推進する学生を表彰し、研究の更なるステージアップを支援することを目的に、博士後期課程学生1年生及び2年生を対象として平成30年4月に設けら

れました。

今年度は、創造性に富む卓越した研究計画を立案し、これに取り組んでいる20名が受賞者に選ばれました。

授賞式では、久保英夫理学院院长から、この賞の趣旨説明とお祝いの言葉が述べられた後、表彰状が一人ひとりに手渡されました。今後も、この賞が

本学院学生の基礎科学に関する深い洞察力と創造性、研究立案・推進能力の向上を一層喚起するものとなることを期待しています。

（理学院）



久保学院院长からの祝辞



授賞式での記念撮影

令和7年度分島亮研究奨励金授与式を挙行

7月28日（月）、理学研究院長室において、「令和7年度分島亮研究奨励金授与式」が執り行われました。

本奨励金は、分島 哲様・分島敦子様が、令和3年5月にご逝去されたご子息分島 亮様（元北海道大学大学院理学研究院准教授）の意志を引き継ぎ、

基礎研究を行う若手ポストクの支援を目的にご寄附されたことを契機に、理学研究院において若手ポストクの研究を支援しようとする趣旨で創設されたものです。

授与式では、関係者列席のもと、永井隆哉理学研究院長から採択者3名に

証状が授与され、本奨励金の趣旨や、永井研究院長と分島先生とのエピソード、今後の研究活動への期待と激励の言葉が述べられました。

（理学研究院）



採択者との記念撮影（左から和田 諒博士研究員、永井研究院長、定成健児エリック学術研究員、池上 森学術研究員）

医学研究院が豪メルボルン大学とワークショップ 「気候変動×移民の健康～日豪を結ぶ課題と可能性」を開催

7月9日（水）・10日（木）に、医学研究院と豪メルボルン大学の医学・歯学・保健科学研究院で「気候変動×移民の健康～日豪を結ぶ課題と可能性」と題した研究ワークショップを開催しました。

両校は令和5年に共同出資の共同研究ワークショップスファンドを立ち上げて以降、令和7年度まで合計20件のワークショップを支援し、新たな研究シーズの発掘を行ってきました。今回のワークショップは、昨年12月から両大学で交流を進める中で実現したものです。医学研究院からは上田佳代教授

及びサークセス・セボソ准教授、メルボルン大学からは気候変動に関する政府間パネル・IPCCに関わるキャスリン・ボウエン教授を中心に準備を進めてきました。

1日目は、上田教授と田中伸哉医学研究院長の挨拶で始まり、気候変動と移民労働者の健康に関する問題が交差する現場をテーマに、両国でいや増す移民労働者の健康問題と気候変動の関連性について、社会医学、グローバルヘルス、政策、社会正義から多角的に探る機会となりました。

2日目は、セボソ准教授が行ったス

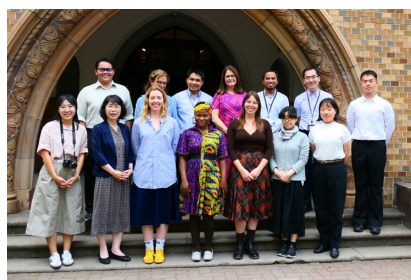
コーピングレビューを基に、学内外参加者を含め、気候変動、農業移民、既存住民を含めた地域食糧保障、医療制度への期待と想定ギャップについて、幅広い議論が行われ、今後の共同研究計画立案に繋がりました。

2日間を通じて学内外から延べ74名が参加し、盛会のうちに終了しました。今後も、両校医学研究院主導による、新たなアプローチでの社会医学研究が期待されます。

（医学研究院、国際連携推進本部）

7月9日（水）講演内容

弘前大学大学院医学研究科 吉田 一隆 特任准教授	青森県における外国人労働者の健康
北海道大学公共政策大学院 池 炫周 教授	近年の北海道における酷暑と豪雪と移民の健康影響と社会正義
北海道教育大学 森谷 康文 准教授	北海道地域における外国人労働者に係る概括
メルボルン大学ポピュレーション&グローバルヘルス学院 カレン・ブロック 准教授	気候変動の影響下での移民・難民の健康福祉
メルボルン大学ポピュレーション&グローバルヘルス学院 ジェマ・タルビー・ブラウン 研究助手	太平洋諸島からの一時的移住に帯同する女性・子どもに見られる家庭内暴力被害
メルボルン大学ポピュレーション&グローバルヘルス学院 イライザ・クロスビー 研究員	アフリカ諸国から豪州への農業移民の健康状態や地方定住



ワークショップ参加者一同



表敬訪問の様子



ディスカッション風景

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

THE UNIVERSITY OF MELBOURNE

Hokkaido University - University of Melbourne Joint Workshop

気候変動×移民の健康

一日豪を結ぶ課題と可能性ー

Challenges & Opportunities of
Climate Change Impact on Migrant Health in
Australia and Japan

2025年7月9日（水）～ 10日（木）

ハイブリッド（オンラインと対面）
北海道大学オープンイノベーションハブエナレッジ
使用言語：英語

本ワークショップでは、気候変動と移民労働者の健康に関する課題が交差する現場をテーマに、異なる専門分野の研究者たちが意見を交わします。ぜひご参加ください。

July 9, 2025 (9:30 - 15:00)

Asst. Prof. Kazutaka Yoshida
Graduate School of Medicine,
Hiroaki University
International worker's health in
Asomori

Prof. Chi Hyunjoo Naam
Graduate School of Public Policy
Hokkaido University
Navigating Climate Change and Migrant
Health: Challenges and Opportunities in
Hokkaido, Japan

Assoc. Prof. Yasufumi Moritani
Hokkaido University of
Education
A brief introduction to foreign workers
in Japan, focusing on Hokkaido

Assoc. Prof. Xerxes Seposo
Graduate School of Medicine,
Hokkaido University
Results of rapid scoping review on the
impact of climate change on migrant
health (updated)

Assoc. Prof. Karen Block
School of Population and Global
Health, University of Melbourne
Climate Change and Displacement:
Implications and Opportunities of Crisis
Narratives

Ms. Gemma Tarpey-Brown
School of Population and Global
Health, University of Melbourne
Women's experiences of temporary
labour migration in the Asia Pacific

Dr. Eliza Crosbie
School of Population and Global
Health, University of Melbourne
"African farmer in Australia, that's a
good dream": adapting to new climates
through cultivation in regional Australia

**July 10 Focus Group Discussion
(9:30 - 15:40)**

招待者
Assoc. Prof. Xerxes Seposo
北海道大学大学院 医学研究院 社会医学分野 准主客教授
x-sepo@sepo.xerxes@group.med.hokkaido.ac.jp

参加登録、
全プログラム、
会場、Zoomへのリン
クはこちらから！

今すぐ登録！！

フライヤー

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

7月30日（水）、北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平岸）において、医学研究院・医学院・医学部、歯学研究院・歯学院・歯学部、保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科及び北海道大学病院は、医学及び歯学の教育・研究のため尊い御遺体をささげら

れた御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、田中伸哉医学研究院長・医学院長・医学部長、網塚憲生歯学研究院長・歯学院長・歯学部長、石津明洋保健科学研究院長・保健科学院長・医学部保健学科長、南須原康行北

海道大学病院長ら19名が参列し、参列者全員による黙祷及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



挨拶をする田中医学部長



参列者による黙祷



献花の様子



農学研究院で客員教授への感謝状贈呈式を挙行

農学研究院において、6月12日（木）に客員教授への感謝状贈呈式を行いました。

農学研究院では、通算10年以上、本学客員教員として、農学研究院・農学院・農学部教育・研究に貢献した方に、感謝状及び記念品を贈呈しています。

贈呈式では、平成24年から令和6年まで、客員教授として「食の安全・安心マイスター」プログラムをご担当され、シンポジウム及び講演会等のコーディネータ等で貢献いただいた林美香子氏に、野口 伸農学研究院長から深い感謝の意を表し、感謝状及び記念品を贈呈しました。

贈呈式の後には、農学研究院長及び農学研究院副研究院長との懇談が行われ、農学に関する教育・研究について意見交換が行われました。

（農学院・農学研究院・農学部）



感謝状贈呈後の記念撮影
（左から森 春英副研究院長、林客員教授、野口研究院長、久保友彦副研究院長）

獣医学研究院で加藤 元先生の北海道大学栄誉賞受賞を祝福

7月10日（木）に北海道大学栄誉賞を授与された加藤 元先生（昭和31年獣医学部卒）が授与式終了後、獣医学研究院を訪問されました。加藤先生は長年にわたり高度な獣医療を提供するとともに、カンザス州立大学やコロラド州立大学との交流を通じて、日本における獣医療の高度化に貢献されました。さらに、人と動物と自然を大切にする「ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド（HANB）」の理念にいち早く注目し、平成12年には日本HANB協会を設立して教育普及活動を活発に展開してこれられました。これらの活動を通

じて社会に対して著しい貢献をし、その功績が特に顕著であると認められ、今回の受賞に至りました。

加藤先生の今回の受賞に対し、獣医学研究院の教職員が参集し、先生へのこれまでの感謝の意を込めてお祝いの会を開催しました。滝口満喜附属動物病院長が加藤先生の功績を紹介し、その後先生の御指導を受けた若手の臨床教員からお祝いのメッセージと花束の贈呈が行われました。また、附属動物病院に新たに「Gen Kato Human Animal Bond推進室」が設置されたことが紹介されました。この部屋は、附

属動物病院における、飼い主さんとペットと獣医師の間の絆をより強くするためのカウンセリングに活用されます。

最後に加藤先生ご本人からもお言葉をいただき、多くの教職員が集まってくれたことに対し感謝の意を示されていました。閉会前に、集まった獣医学研究院の教職員全員と記念撮影を行い、さらにお世話になった若手臨床教員が一人一人、加藤先生と固い握手を交わし、これまでのお礼と今後の活躍を誓いました。

（獣医学研究院）



加藤先生からのスピーチ



集まった獣医学研究院の教職員全員と記念撮影



動物医療センターに新たに設置された
「Gen Kato Human Animal Bond推進室」

スラブ・ユーラシア研究センター2025年度夏期国際シンポジウム 「ユーラシアの地殻変動：過去と現在」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターにおいて7月3日（木）・4日（金）に恒例の夏期国際シンポジウムをハイブリッド形式で開催しました。今回は、本年度採用の外国人招へい教員を中核に、その受け入れ担当者が一つずつセッションを担当するという形でシンポジウムを組織しました。その過程で、長いタイムスパンでユーラシア大陸の変化を見るという、現在のスラブ・ユーラシア研究センターにふさわしい、大きなテーマが見えてきました。そこで、本年度のテーマは「ユーラシアの地殻変動」に決まりました。

こうした長期の時間軸をとることで、近代がつくりだしたに過ぎない地域区分を超えて、より巨視的にユーラシア大陸の人類史の変動を観察し、それを通じて近代とはどのような特徴をもった時代であったのかを考察することが可能になります。特に私たちが注

目した地中海東域、黒海・カスピ海沿岸は、多様な文化の交錯する豊穡の地でありながら、近代にあって最も暴力的な変化を被った場所です。その意味で、この地域にこそ、近代の諸問題が濃縮された形で現れ、さらに現代にまでその影響が続いていると考えることができます。第1セッションは「戦間期におけるヨーロッパ東部のマイノリティの運命」、第2セッションは「国際法へのユーラシア・アプローチ」、第3セッションは「義務と記憶の働きの間のボスニア・ヘルツェゴビナの過去」と題して、ウクライナ、中東、バルカンから20世紀の世界秩序を考察しました。翌日、ユーラシア大陸の「地殻変動」のさらに深奥を探るべく、東ユーラシアに視点を移しました。第4セッションは「中央アジアにおける人の移動と社会変容」、第5セッションは「新しい道具で肥沃な土壌を耕す：ユーラ

シアの長期展望への学際的アプローチ」と題して、自然社会環境変化と人の移動という観点から、その人間社会の変化のあり方を検討しました。

本年はスラブ・ユーラシア研究センター創立70周年にもあたります。5つのパネルに加えて、2日目の午前中にはセンターの来し方行く末を考えるパネル・ディスカッションも行われました。まさに、この70周年記念の年にふさわしい、ユーラシア大陸からみる人間社会という大きな議論ができたのではないかと思います。

2日間の議論には、対面・オンライン含めて162人（うち外国人44人）が参加し、充実したシンポジウムとなりました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



第5セッションの議論の様子



2日間のシンポジウムを終えて

学生相談総合センター学生相談室主催の 「新学期に役立つ！春のワークショップ」を開催

学生相談総合センター学生相談室では、学生を対象に定期的にワークショップを開催しています。今回は「新学期に役立つ！春のワークショップ」として、大学生活のスタートに役立つ情報を取り入れた内容で、全4回開催しました。また、初めての試みとして、情報教育館2階のピアサポートルームを会場として実施し、ピアサポーターもワークショップに参加することで、学生間のコミュニケーションがより活発に行われるとともに、ピアサポートルームの周知にも繋がる良い機会となりました。

ワークショップは、昼休みの30分間で、次の内容で行いました。まず、4月

25日（金）は、プレワークショップとして、「ゴールデンウィークはどんな風に過ごしたい？」というテーマでのグループワークを行い、続いて第1回の5月16日（金）は、「人間関係を始めるヒント・雑談のコツを知ろう！」、第2回の5月22日（木）は「抜け出そう！先延ばし行動対策」、第3回の5月26日（月）は「大学生活に役立つ・タスク管理のコツ☆」というテーマで、それぞれカウンセラーが簡単なレクチャーを行った後、実際に会話の練習をしたり、ワークシートを使ってタスク管理のイメージを掴んだり、体験的な要素も取り入れつつ行いました。最後には質疑応答の時間も設け、参加した学

生からの質問に、他の学生がアイデアを伝えるなどの交流も見られました。

参加学生は延べ20名で、ピアサポーターは各日2名加わりました。アンケートからは、「紹介された方法はやりやすそう」「人と話す機会がとれて心がほっこりした」「先輩の話を聞けてよかった」といった感想が見られました。

学生相談総合センターでは、年間を通じて様々なワークショップを実施していますので、ぜひ学生の皆様にご案内ください。

（学生相談総合センター）



「抜け出そう！先延ばし行動対策」の様子



「大学生活に役立つ・タスク管理のコツ☆」の様子



ワークをする学生達

「自分に合ったツールが見つかる！文献収集・管理ツール講習会」を開催

附属図書館では、「自分に合ったツールが見つかる！文献収集・管理ツール講習会」を6月に開催しました。本講習会は、利用目的が同じツールの講習会を「シリーズ」として開催することにより、機能等を比較しやすくし、利用者が必要に応じて適切に選択できることを目指したものです。

6月12日（木）には、エルゼビア・ジャパン株式会社の高石雅人氏を講師に招き、オンラインで「Mendeley編」を開催しました。ScienceDirectでの文献収集やMendeleyを用いた文献管理・活用の方法に加え、レポート・論文の書き方についても説明がありました。6月16日（月）には、クラリベイト・ア

ナリティクス株式会社の熊谷美樹氏を講師に招き、オンラインで「EndNote編」を開催しました。Web of Scienceでの文献調査・分析方法やEndNoteオンラインを用いた文献管理・活用の方法について解説がありました。

6月26日（木）には、Zoteroの開発にも携わった本学高等教育推進機構国際教育研究部のミヒヤエル・シルツ准教授を講師に招き、附属図書館北図書館セミナールームで「Zotero編」を開催しました。受講者はインストールの手順から基本的な使い方まで、実際の画面を見ながら自身のパソコンを操作し学習しました。

実施後のアンケートでは、「初めて

文献収集・管理ツールを使うにあたって、複数のデータベースや文献管理ツールを比較する機会となった」「うまく使いこなせていなかったツールの使い方について具体的に知ることができた」などの回答が寄せられ、有意義な講習会となりました。

各講習会当日の様子は、アーカイブ動画として2026年3月末まで附属図書館ウェブサイトにて視聴可能です。（学内限定。学外からはリモートアクセスにて視聴できます。）

<https://www.lib.hokudai.ac.jp/2025/07/02/169698/>

（附属図書館）

知って 選んで 使う！

自分に合ったツールが見つかる！

文献収集・管理ツール講習会

レポート・論文作成に役立つ文献収集・管理ツールの講習会を実施します。全3回のシリーズでデータベース・文献管理ツールを紹介します。ひとつだけでも、全部でも受講可能です。自分に合ったツールを見つけましょう！

こんな悩み、ありませんか？

後で見たい論文のタイトルを
コピペ、コピペ、コピペ、.....

投稿先ごと文献リストを
直すの面倒

あれ、あの論文どこで
見たんだろう？

この論文って前にも
読んだことある？

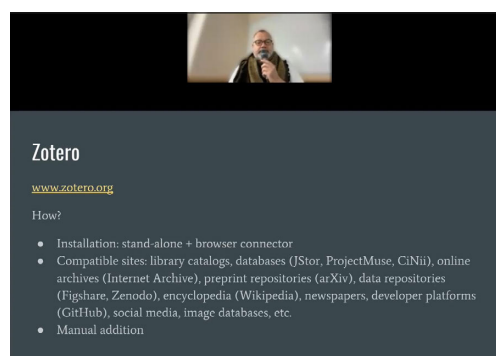
タイトル	日時	形式
文献の探し方から管理まで(1) Mendeley編	6/12(木) 16:30-17:30	オンライン (Zoom)
文献の探し方から管理まで(2) EndNote編	6/16(月) 16:30-17:30	オンライン (Webex)
オープンソースの文献管理ツール Zoteroの紹介	6/26(木) 16:30-17:30	対面/オンライン (Webex)

参加申込・詳細はこちらから！

<https://www.lib.hokudai.ac.jp/2025/05/26/168768/>

お問合せ：附属図書館 学習支援企画担当 mail:nref@lib.hokudai.ac.jp

講習会ポスター



Zotero講習会の様子

北海道大学病院で「第65回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催

7月30日（水）に、北海道大学病院アメニティホールにおいて、「第65回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催しました。「ふれあいコンサート」は、例年夏と冬の2回、患者サービス推進委員会の依頼に基づき病院の多職種から編成された「作業部会」が中心となって企画・運営されています。

今回のイベントは、患者さんの「七夕の願い」が込められた短冊が会場を彩る、涼やかな雰囲気の中で、開始されました。

コンサート開演前から行われる縁日コーナーでは、入院中の患者さん向けに、宝探しゲームや顔出しパネルでの

チェキによる写真撮影場所が設けられ、患者さんは、配布されたサイリウムと特製うちわを手にして、思い思いに、盛夏の雰囲気を楽しんでいました。

南須原康行病院長による「ともすれば退屈になりがちな入院生活に、ささやかながらも彩りを届けたい」との挨拶で開幕したコンサートでは、公認学生団体「北海道大学“縁”」による勇壮な演舞が披露され、若さあふれるダイナミックな踊りに、会場から大きな拍手が沸き起こりました。続いて行われた公認学生団体「北海道大学BIGBAND 北極」による演奏では、力強くも繊細なビッグバンドの音色がホール全体に

響き渡り、観客の心を優しく包み込みました。演奏が始まると、自然とリズムに合わせた手拍子が始まり、会場全体が心一つになって、大いに盛り上がりました。

イベントの様子は、病室にもテレビ放送され、ホールに降りることができない患者さんにも、ひと時の清涼を届けることができました。

最後に、城石陽子看護部長により「患者さんの回復と健康を願う」との閉会の挨拶があり、イベントは、大盛況のうちに幕を閉じました。

（北海道大学病院）



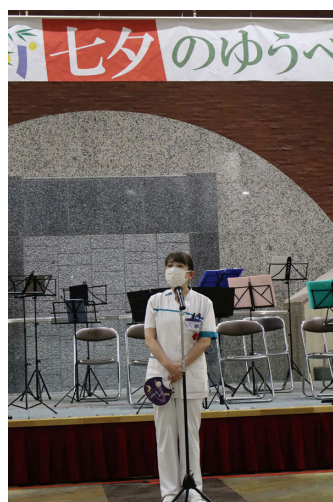
南須原病院長の挨拶



北海道大学“縁”による演舞



北海道大学BIGBAND北極による演奏



城石看護部長の挨拶

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
7.7.2	ソウル大学校（大韓民国） Jong-Youn Rha 学生担当理事	今後の交流に関する懇談
7.7.16	駐日ケニア共和国大使館 Moi Lemoshira 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
7.7.23	駐日ドイツ連邦共和国 Petra Sigmund 特命全権大使	今後の交流に関する懇談



Jong-Youn Rhaソウル大学校学生担当理事（右から7人目）



Moi Lemoshira 駐日ケニア共和国大使館特命全権大使
（左から3人目）



Petra Sigmund 駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使
（左から4人目）

（国際部国際連携課）

■人事

令和7年8月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和10年3月31日まで）	渡 辺 美代子	日本大学常務理事
【教授】 低温科学研究所教授	飯 塚 芳 徳	低温科学研究所准教授

新任教授紹介

令和7年8月1日付



低温科学研究所教授に

いづか よしのり
飯塚 芳徳 氏

雪氷新領域部門氷河・氷床分野

生年月日

昭和49年1月30日

最終学歴

総合研究大学院大学数物科学研究科極域科学専攻博士後期課程修了（平成13年3月）
博士（理学）（総合研究大学院大学）

専門分野

雪氷学

訃報

名誉教授 佐藤 教男 氏
(享年99歳)



名誉教授 佐藤 教男 先生は、令和7年7月10日にご逝去されました。

佐藤先生は昭和2年1月に北海道小樽市に生まれ、同26年3月に北海道大学工学部生産冶金工学科を卒業後、信越化学工業株式会社で研究に従事し、同29年7月に北海道大学工学部理学第二講座の助手に採用されました。昭和35年6月に同講座の助教授、同44年4月に同講座の教授に昇任されました。その間、昭和36年に工学博士の学位を授与され、また、同年から同37年にかけてカナダの国立研究所に留学されまし

た。昭和60年6月から平成元年3月まで北海道大学評議員、昭和61年6月から平成元年3月まで工学部長・工学研究科長を務められました。平成2年3月に定年退職され、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。その後、放送大学北海道学習センターのセンター長を務められました。

教育面では、工学部化学系共通講座の教授として、物理化学（熱力学）・同実験、電気化学を担当し、当時の応用化学科並びに合成化学工学科の学生の育成に携わられました。研究においては、金属材料の表面電気化学・不働態・腐食科学の分野で大きな寄与をしており、鉄族金属の不働態皮膜の成長、構造、組成、並びに不働態皮膜を統一する理論など多くの論文を発表されました。また、金属電極表面を研究する光学手法並びに電子分光手法を新規に導入されました。

定年退職後には、電気化学の基礎に立ち返り、単極電位（絶対電位）、電極表面／水溶液の界面電位差、水溶液中のイオンのポテンシャルなどの理論

を構築することに尽力されました。これらの研究成果に対して電気化学協会から武井賞（協会賞）（昭和53年4月）を授与されております。また、国内では腐食防食協会の会長を務められたほか、国際的には国際腐食会議日本代表委員、国際不働態シンポジウム委員・議長を務められました。さらに、国際賞として昭和58年10月に米国電気化学会腐食優秀功績賞（H.H.ユーリック賞）、同60年9月に英国腐食科学会U.R.エバンス賞、平成元年4月に米国腐食技術者協会W.R.ホイットニー賞、同11年10月に米国電気化学会業績賞、同13年9月に米国電気化学会オーリン・パラジウム賞を受賞されました。

研究に真摯に取り組み、国際的に活躍した佐藤先生、また工学部長・工学研究科長として工学部の組織改革に邁進した佐藤先生のご功績に敬意を表しますとともに、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（工学院・工学研究院・工学部）

編集メモ

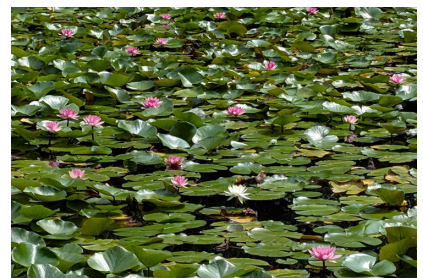
- 大野池ではスイレンが咲き誇り、見頃を迎えています。
9月27日（土）に、「ホームカミングデー2025」を開催します。今年は、2026年に迎える創基150周年に向けて、機運醸成を図るカウントダウンイベントとして開催します。皆様のご参加をお待ちしております。詳細は、特設サイトをご覧ください。

<https://www.hokudai.ac.jp/home2025/>

- 現在、本学公式クラウドファンディングでは、「フォトニクスで歯を守る！『見える化』で細菌と戦う新しい歯科保存」「仲間と共に紡いだ音楽で、勇気と感動を届けたい！～北大交響楽団～」を公開しています。詳細は、以下ページよりご覧ください。

北海道大学クラウドファンディング

<https://readyfor.jp/pp/hokudai>





キャンパス懐古 05 市民も憩う中央ローンのサクシュコトニ川（1970年代半ば）

中央ローンは戦前から北大生そして市民の憩いの場だった。芝生が広がり、サクシュコトニ川が流れ、ニレ・ポプラ・ヤナギなどの木々が木陰を作り、夏には涼やかだ。くぼ地なので斜面もあり、座ったり寝そべったりしてくつろぐのにも格好の場所だ。

サクシュコトニ川は100年前にはサケも遡上していたが、1950年代には水位が下がり、澱みや濁れ川に

なっていた。

1970年代にはポンプで水を汲み上げて流す環境整備を行った。そして、2003年、藻岩浄水場から水を引き、かつての川筋にせせらぎを再生している。

（大学文書館・北海道大学150年史編集室）